

社会環境当番「リカンドル」(Likander)への参加

- 1 自治体名 ロシア沿海地方
- 2 発表者 アルゲトキン ヴィクトル(Argetkin Victor)
沿海地方ナデージンスキー (Nadejinsky) 地域
ヴォーリナ・ナデージンスコエ (Vol' no-Nadejinskoye) 村第一中学校7年生
- 3 活動名 社会環境当番「リカンドル」(Likander)への参加
- 4 活動期間 2005年8月
- 5 活動場所 リカンドル半島、ポポフ島
- 6 活動参加人数 8名
- 7 活動をはじめた経緯
ピョートル大帝湾海岸の環境状況悪化

8 発表要旨

私たちは地球最大の海洋である太平洋の近くに住んでいます。ナデージンスキー地域はピョートル大帝湾の海岸に位置しています。ピョートル大帝湾は、ロシア国内で、様々な海洋生物や植物にもっとも恵まれている海洋です。ここには、ロシアで唯一の国立海洋保護区域があります。

しかし、近年、企業によるピョートル大帝湾の汚染が悪化しています。我々の海をきれいに、いきいきしたまま保全するためには、海岸線のすべての地域の住民の協力が必要であると思います。そのため、当学校の生徒たちも海岸汚染問題解決に取り組んでいます。

学校内にロシアで一つしかない児童海洋博物館があります。そこで350種以上の海洋生物や植物、また100以上の海底写真が展示されています。殆どの展示品は学校の生徒たちが学習旅行や遠足のときに集めたものです。

展示場の面積は40㎡しかありませんが、展覧会はとても効果的で有意義であると思います。展示場を訪れる地域の住民や地域の学校の生徒たちのために様々な説明を用意して、ピョートル大帝湾の生物だけでなく、発生している環境問題についても紹介しています。

博物館を設立してからすでに7年が経過しています。その間、訪問者の数は1,000人を超えました。村の文化交流施設としても使用されており、村の誇りにもなっています。

ところで、私たちの学校ではもう一つの環境保全活動にも参加しています。6年間にわたって、毎年夏に30名の生徒たちがポポフ島における社会環境当番「リカンドル」に参加しています。ポポフ島は観光客に大人気のスポットです。しかし、訪れる人々が環境に悪い影響を与えるケースが少なくありません。

「環境当番」は、ポグラニチナヤ入り江の海岸に位置する国立極東海洋保護区域北部の環境保護活動をサポートするために設立されたボランティア活動です。当番の課題は、地域保護制度を守り、ポグラニチナヤ入り江南部と海洋保護区域のエリアのごみを収集することです。

2005年8月に私たちのクラスの生徒も当番活動に参加しました。活動参加期間中は、海岸にあるキャンプに滞在しました。海洋保護区域のスタッフが、区域内のルールと違反防止について詳しく説明してくれました。すべての参加者に【海洋保護区域社会監査証明書】が発行されました。

活動期間中、海洋保護区域の近くに滞在している観光客に、自然に対して正しい行動をするように呼びかけました。そのルールを説明するパンフレットなどを配って、ルールを守らない人たちに注意をし、

(注意回数全期間中 786 回)、違反について海洋保護区域のスタッフに報告をしました。

毎日担当のエリアでゴミを収集し、ポポフ島の海岸がゴミ捨て場にならないように頑張っていました。4 日間で、8 名のメンバーで 3,000 m²のエリアからゴミ袋 50 袋分のゴミを集めました。平均 1 日約 2,570 個のゴミで、そのうち 9 割程度は生活廃棄物であることが明らかになりました。

プラスチックのゴミ (袋、ペットボトルなど) 約 80%

ガラス (ビンなど) 7%

金属類 (缶詰の缶、ふたなど) 4%

紙 2.3%

ゴミ収集をしながら、ゴミが集中するエリアは観光客の滞在が許されているエリアの範囲と一致していることに気づきました。つまり、人の集まりが最も多いところにごみもたくさん発生します。それは人間による環境破壊の一部に過ぎません。近くに、さらにひどい環境破壊が起きています。

海岸を歩いているときに、海岸に多くのクラゲの死体が漂着していることに気づきました。スタッフに尋ねると、近くの島で、隣の国の人々が土地の一部を購入し、工場を建設し、そこでクラゲの体から漢方薬に幅広く使用されている物質を採集していると説明されました。クラゲの死体が海に捨てられて浜に漂着しているのです。

環境当番の参加者は、環境保護をテーマにした看板 (10 枚) や海洋保護区域の範囲を指定する柵を設置しました。島では、植物公園の作成や島の改善作業などを手伝っていました。また、ロシア科学アカデミーの科学者の研究を見て、海洋生物学の分野で様々な新しいことを学びました。【リカデル海岸における海洋生物】というコレクションをつくり、学校の海洋博物館に寄贈しました。

活動参加中、参加者一人一人が責任を持って一生懸命頑張っていました。毎日の作業とゴミ収集はとても楽しかったです。最終的には、観光客が多くても海岸にはゴミが散らかされていない風景が私たちにとって一番の楽しみでした。結局、地球と海洋の健康は人間の責任です。